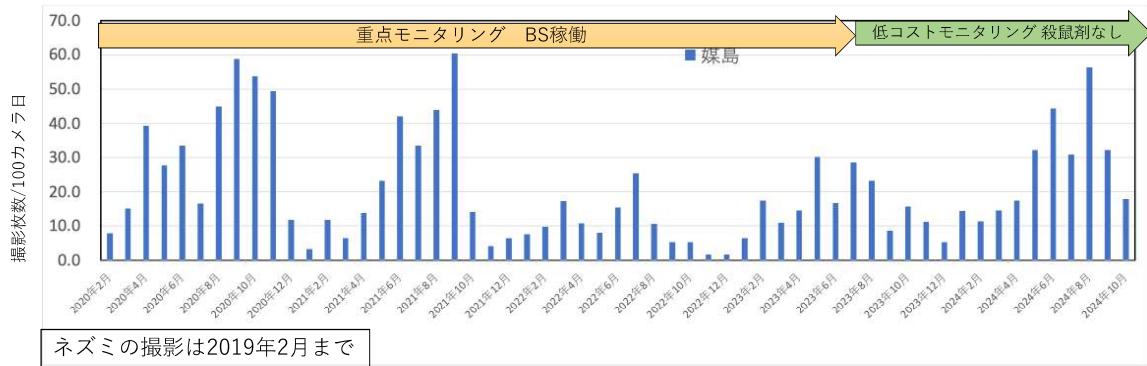


■ 媒島におけるアカガシラカラスバトの出現状況

東京都小笠原支庁：聟島列島植生回復調査結果

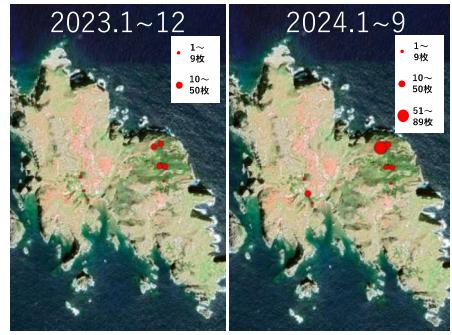


手法：

- ・外来ネズミ類の低成本モニタリングのために稼働中のセンサーカメラ（7～8台）のデータを回収し、撮影頻度を算出。

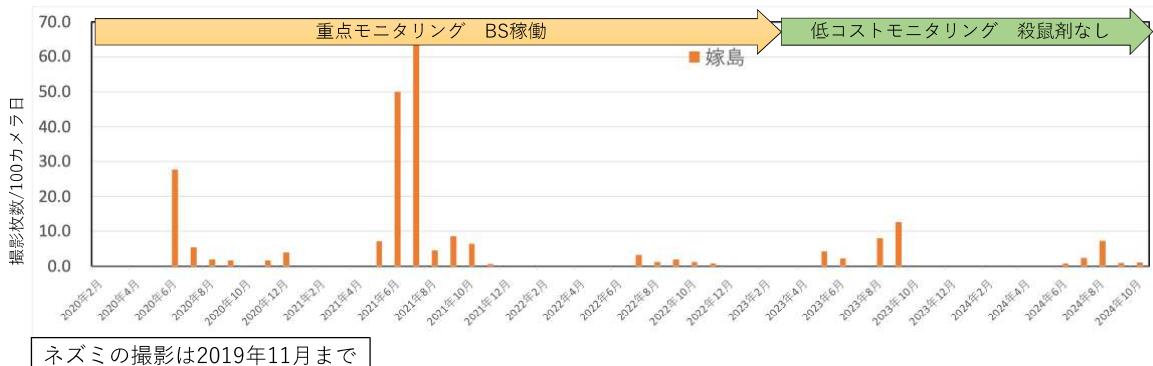
結果と考察：

- ・島内の森林エリアにおける継続的な利用を確認（ピークは春～秋の間）。
- ・カメラによる撮影のほか、現地では卵や若鳥も確認されていることから、繁殖地となっていると考えられる。



■ 嫁島におけるアカガシラカラスバトの出現状況

東京都小笠原支庁：聟島列島植生回復調査結果

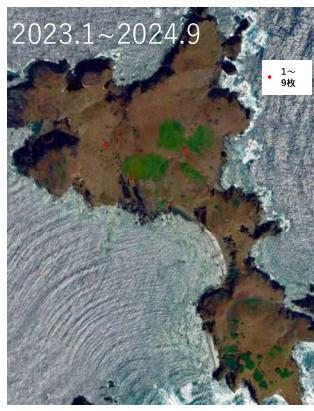


手法：

- ・外来ネズミ類の低成本モニタリングのために稼働中のセンサーカメラ（5台）のデータを回収し、撮影頻度を算出。

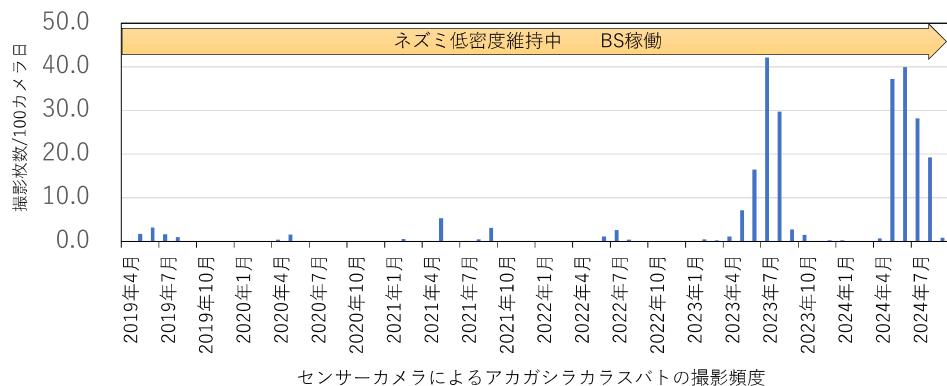
結果と考察：

- ・草地内のウラジロエノキ帯及び小型陸産貝類生息地においては、春から秋にかけて出現。
- ・過去3年間の出現状況は撮影頻度が低い状態で推移。



■南島におけるアカガシラカラスバトの出現状況

東京都小笠原支庁：南島自然環境モニタリング調査結果



手法：

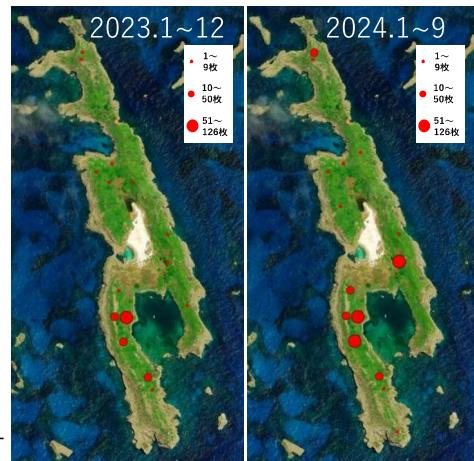
- ・外来ネズミ類の重点モニタリングのために稼働中のセンサーカメラ（22～29台）のデータを回収し、撮影頻度を算出。

結果と考察：

- ・2023年以降、夏期におけるハト出現頻度が急増。
- ・ソングは確認されているが、繁殖状況については不明。
- ・増加要因は、ジュズサンゴ（外来草本）の繁茂拡大、殺鼠剤ベイトステーションでの採餌、マイマイ類の再導入等、餌資源の増加が考えられる。



撮影された成鳥



撮影地点別の撮影頻度（枚数/100カメラ日）